

国語科より

【受験生 国語（受験国語基礎）】

1. ご用意いただくものと配付するもの

①予め用意して **Gnoble** の授業に持参すべきもの

□辞書(電子辞書やスマートフォンのアプリ・サイトでも可)

解説の補助として国語辞典・古語辞典などを参照できると便利です。古文・漢文の授業では日常的に使用している古文単語帳や漢文の教材などがあれば、持参しましょう。

また、1学期4月度で配布する「古文漢文必携テキスト」は5月度以降も必ず持参してください。

②授業内では使用しないけれども、ご用意いただきたいもの

□古文・漢文の基礎レベルの読解問題集(5月度以降)

授業内では、難しめの問題、解くのに工夫が必要な問題を中心に扱います。それを復習することとはもちろんですが、日常的な学習に使用するため、易しめの読解問題集も用意し、演習経験を積みましょう(具体的な教材名等は授業内外で担当よりお伝えします)。

□「赤本」「青本」などの過去問演習用教材

ご自分の志望校でどのような問題が出題されるかを予めある程度知っておくと到達目標の目安がつけます。閲覧用ですので、実際に購入するのは1学期終了後で結構です。

③**Gnoble** の授業内で配付されるもの

□古文漢文必携テキスト:1学期4月度で配布します。1学期終了まで常に使用します。

□古文漢文演習プリント:授業ごとに配布します。基礎的な問題から過去問まで取り扱います。

□確認テスト:前回の授業内容の定着を確認するテストです。

□復習プリント:授業内容の定着を図るためのプリントです。

2. 授業の進み方と日々の取り組み

①授業の進み方

基礎から標準、標準から応用とタームが進むごとに内容が深まるように授業が進みます。一度の欠席によって抜けてしまう内容が大きい講座になりますので、なるべく欠席しないようお願いいたします。

4月:古文→用言活用・助詞・助動詞・敬語、基礎的な文章読解演習、古文単語
漢文→文構造の理解(再読文字)、基礎的な文章読解演習

5月:古文→和歌の修辞法・特殊読み、標準的な文章読解演習、古文単語
漢文→句形・副詞読み・漢文語彙、標準的な文章読解演習

6月:古文→標準的な文章読解演習、過去問演習、古文単語
漢文→過去問演習
現代文→評論文読解演習

7月:古文→標準的な文章読解演習、過去問演習、古文単語
漢文→過去問演習
現代文→小説読解演習

②日々の取り組み

A・授業の予復習

1 学期 4 月度 5 月度においては、予習は課しません。課された課題と復習を中心に学習してください。それに加えて、「古文の全品詞分解や訳の作成」「漢文の音読や書き下し文の作成」などを行ってもらえればより学力が伸びます。この丁寧な復習に掛けてもらいたい時間は 60 分から 120 分です。6 月度 7 月度からは毎授業、事前に解く問題が指定されます(大問 1～2 題、所要時間 30～60 分程度)ので、必ず実施した上で授業に臨みましょう。授業後は丁寧な復習を行うことが必要です。

B・基礎知識の確認

一度履修したことは一度で定着させるよう、復習や見直しを徹底してください。授業から 24 時間以内に一度復習をし(帰りの電車でテキストを見直す程度でも結構です。5 分から 10 分程度でかまいませんのでザっと見直してください)、加えて翌週の授業までに 2～3 回同じようにザっと見直しをしてください。机に座って丁寧に復習する時間も必要ですが、反復の見直しも大切です。

C・過去問演習

大学・学部ごとに出题形式・傾向の大きく異なる国語では、過去問での演習が重要です(残念ながら、予想問題集は出題を十分に模しているとは評し難く、過去問そのものでの練習を推奨します)。受験国語基礎は夏休みから過去問演習に当たれるように学力を伸ばす講座ですので、1 学期中は過去問の演習をお勧めはしません。夏期講習中または夏期講習以降、それぞれの学習状況に合わせ、各講座の担当が開始時期や頻度などを指示します。東大・難関国語では、メール・FAX 等も活用した添削制度を運用しています。